

## 「石巻の中高生が神戸の高校生と交流するぞ プログラム」 報告書

2011年8月5日

報告者：石巻復興支援ネットワーク 渡部慶太

【日時】平成23年8月3日～5日

【参加者】石巻の中高生7名（高橋さとみ、渡辺裕也、松川彩香、車塚勸菜、阿部つばさ、兼子真輝、秋山英里佳）、兵庫高校18名、ユースACT4名

【主催】石巻復興支援ネットワーク、特定非営利活動法人オンザロード

【協力】兵庫県立兵庫高校、丸五市場、シチズンシップ共育企画、特定非営利活動法人阪神大震災「1.17 希望の灯り」、特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所

【目的】阪神大震災後の復興した神戸を視察することで、復興へのイメージを持つ。また、東日本大震災の被災地である石巻市の中高生と阪神大震災の被災地である神戸市の学生たちによる交流を通し、つながり、復興へ向けて一致団結し活動していく。

### <プログラムまとめ>

1日目の交流プログラムでは、互いに知り合うため、各自の活動報告を行った。阪神大震災当時、兵庫高校の生徒であった尾崎様から当時のお話をいただいた。2日目の午前中は、兵庫高校の生徒たちの案内による新長田地区のまち歩きを行った。午後は、今後復興にどうかかわっていくかを各グループで話し合い、発表を行った。夕食を各チームで作し、レクにより交流を深めた。3日目は、東遊園地へ行き、希望の灯り等の見学を行った。関西の学生が8月下旬に石巻市を訪れる。本プログラムで企画された仮設住宅向けのイベント実施等を行う予定である。本プログラムを通じ、学生間、地域間の絆が構築された。長期間要すると思われる復興へ向けて、今後も連携し活動を行っていく。

### <1日目 交流プログラムI（各自の活動報告）>

1日目の交流プログラムでは、互いに知り合うため、互いの活動報告を行った。まずは、石巻の中高生より、ジュニアリーダーサークルのげろっば、WMIの活動報告を行った。その後、兵庫高校OBの尾崎さんよりお話をいただいた。現在は脳外科医として活躍している尾崎さん。日本全国、グローバルなフィールドで、震災について、聞かれることが多かった。あなたの口で、震災について語るができることが重要というメッセージをい

いただいた。最後に、兵庫高校の生徒による地域での活動の発表をしていただいた。高校生と地域をつなぐ「鉄人化計画」等の活動報告を行った。京都のユースACTは、ニシウラクエストや、マップデラックスというユニークな名前で、地元の方々の交流や放置自転車の問題に対し、活動報告を行った。



### <2日目 新長田のまち歩き>

2日目午前中は、兵庫高校の学生たちの企画によるまち歩きを行った。歩くルート、見学するお店等、班ごとに工夫を行った。阪神大震災から復興を遂げたまちを各班散策した。横山光輝氏のゆかりの地であることから、鉄人28号、三国志等を生かしたまちづくりがなされていた。昼食は、震災で焼失しなかった丸五市場で各々好きな昼食をとった。その後の振り返りでは、石巻の学生たちより、「鉄人28号、三国志の関係が多かった」「住民の方がフレンドリーであった」、「シャッターを閉めているお店が多かった」、「鉄人28号の街灯があった」等の意見が活発に出た。その延長線上で、石巻の復興は石ノ森章太郎氏の活用等を含めどうしていくのが良いのか話に上がっていた。



## <2日目 交流プログラムⅡ（今後の復興に向けて）>

2日目午後は、廃校になった二葉小学校を活用された神戸市立地域人材支援センターで行った。まず、まち歩きの振り返り、石巻の学生たちより被災地の現状について発表を行った。その後のワークショップでは、今後復興にどうかかわっていくか、興味のあるテーマ、活動内容を話し合った。後半では、其々のグループで震災に対し、どのような活動をしていくか企画、発表を行った。兵庫高校の学生からは、被災地での清掃活動、お祭り、署名活動等が上がった。ユースACTからは、仮設住宅団地内での交流イベントを8月実施する等具体的な発表があった。石巻の学生からは、皆が来なくなる商店街をつくれるようなお店を作ろうという発表がされた。



## <2日目 夕食会&レク>

夕食は、其々のチームで、夕食作りに挑戦。食材の買出しも自分たちで行った。石巻チームは、石巻焼きそば、兵庫高校生チームは関西風お好み焼きを作った。皆おいしそうに食べていた。食後はレク。大盛り上がりで大きな声が窓の外に漏れていた。プログラムを終え、別れの時、お互い再会を誓い、携帯電話の番号を交換し、抱き合い、握手を交わした。



< 3日目 東遊園地 >

最終日である3日目、早起きをし東遊園地へ向かった。そこで、NPO法人 阪神淡路大震災「1. 17 希望の灯り」の代表 白木さんより当時の被災体験を踏まえ、希望の灯り、死者の石碑の趣旨、想いを語っていただいた。ご自身も震災遺族であり、奥様を亡くされた白木さんは、この灯りを伝えていくことをご自身の使命とされているようであった。最後に、この想いを石巻へつなぐため分灯式が行われ、子どもたち全員で火をいただいた。帰路の途中で、市民の声が反映されたみなとのもり公園へ立ち寄った。復興へのプロセスで、住宅が復興されたあとに公園を整備しようということで近年できたものである。市民の意見を十分に反映させ、ダンス用の長さ10mにも及ぶミラーの設置、スケートボード場のデザイン、広いグラウンド等子どもからお年寄りが集まれる憩いの場になっていた。



< 8月4日版 読売新聞版に記事に掲載されました。 >

